

【平成23年5月18日（水）受信】

三木先輩 ごていねいな、お電話並びにメール、ありがとうございます。

岩手 千田&さよ です。

早いもので、あの日からあつという間に2カ月がたちました。毎朝の通勤で目にうつる大船渡の海は、とてもおだやかです。あの日のことがいまだに信じられません。

管内の学校は先月20日に始業式、21、22日に入学式をむかえました。子どもたちも元気に通っています。高田小は昨年度430名の児童数でしたが、100人以上転校していきました。さよさんの学校は3階まで津波をかぶり、今は隣の学校に3校一緒になって勉強しています。被災しなかった学校でも、体育館は物資置き場や自衛隊、警察の方々の宿泊場所、校庭は仮設住宅設置のため、子どもたちが大好きな体育が十分にできない現状です。先日の教務主任会議では、体育の時間に田んぼのあぜ道でリレーをしている学校の報告がありました。隣の中学校は避難場所になっていて、いまだに約500人の方が暮らしています。さいわいにも、瓦礫に襲われた高田小の体育館は、全国のボランティアの方々のおかげで復旧しました。校庭はまだ使えませんが…。再来週から中学校の生徒が体育の授業に来ます。

少し長くなりますが、あの日から、学校再開までの様子を送りたいと思います。

【千田】

あの日、強い揺れのあと、430人の子どもたちと32名の職員は校庭に避難しました。2日前にも津波注意報が出たので、心配して迎えにきたおうちの方が何人かいました。学校までの道路はとても狭いので、私は体育館のところで車の誘導をしていました。30分過ぎでしょうか。下からあがってきた知り合いの運転手さんが「もう津波がきているぞ」と叫んで、坂道をあがっていきます。空を見上げると、黄色がかっていました。土ぼこりなのでしょうか。あわてて校門の方を見ると、車やこわれた屋根がものすごい勢いでせまってきました。校門で腰をぬかしているどこかのおばあさんをおんぶして、必死で校庭を走りました。隣にいた用務員さんが「逃げろ、はやく逃げろ」とさけんでいました。私は、前しか見ていないので、振り返る余裕はありませんでした。階段をのぼって（校庭から2Mくらいあるのですが）校庭を振り返ると、車や瓦礫であつという間に埋め尽くされてしまいました。

それから第2校舎に向かいました。この校舎も危ないと思いましたが、みな第2校舎の階段をのぼっていました。子どもたちはいませんでした。私も3階まで夢中でのぼりました。窓から、波がひいていくのが見えました。それからみんなを校舎からだし、中にだれもいないことを確かめてから校舎をでました。子どもたちも職員もばらばらに逃げたようです。

私は高台にある老人ホームへ行きました。もう夕方になっていました。ここには学校の子どもたちは95人避難していました。他の子どもたちはどこに行ったのか、この時点ではわかりませんでした。夕飯は、紙コップ4分の1程度のなめこ汁だったと思います。ふだん給食をのこしている子どもたちも、文句を言わず列にならび「おいしい、おいしい」と言っていたのを覚えています。夜はとても寒かったことと、星空がとてもきれいだったことをおぼえています。この晩は、ストーブもなく、床に寝ました。それから避難所生活が始まりました。

私の親父は大船渡と盛の境目、地の森というところで車の整備の仕事をしていました。77歳ですが、現役です。その他、地元の小学校の近くの交差点で交通安全指導員を30年以上やっていました。大船渡は1960年（昭和35年）、私が生まれた年にチリ地震津波で大きな被害を受けています。親父はチリ地震を体験しているので、まあ逃げただろう。むしろさよさんが務める小学校の方が心配でした。

車を流されたさよさんが、いとこの車に乗せられて老人ホームに来たのは3日めでした。「ああ、お父さん、生きていた。…じいちゃんの工場がつぶれて…」まさか…。子どもたちも心配でしたが、13日の夜、老人ホームを出ました。真っ暗な三陸縦貫道、音が聞こえないFM放送。3日ぶりの自宅は、ろうそく。お袋とさよさんが静かに待っていました。自宅は海からはなれているので無事でした。

翌朝、工場に行くと、45年前に建てられたトタンの小さな工場は、あとかたもありませんでした。裏を走っているJR大船渡線には30トンの船が線路の上に横たわっていました。工場の隣のバイク屋のおじさんが「おれが逃げるまで、父さんは事務所にいたっけぞ」とおしえてくれました。探したくても、人の力では瓦礫をうごかすことができません。遺体安置所になっているお寺さんや中学校を何回も探してみましたが、それらしい遺体は確認できませんでした。それから3日おきぐらいに老人ホームと自宅を往復する日がしばらくつづきました。

28日、「卒業証書を配布の会」を学校の音楽室で行っているとき、市役所につとめているバレー仲間から「29、30日、工場付近に重機が入る」との連絡がありました。29日早朝、東京からもどってきた長男と一日作業を見ました。長男は仕事の関係で30日の午後に帰ることになっていました。

30日の10時すぎ、工場近くにいた山形の消防士さんに無線が入りました。「60代、つなぎをきた男性…」息子といっしょに夢中でかけつけてみると、たしかに親父はそこにいました。寒い日が続いたので、亡骸はいつもと変わらぬ格好でした…。作業をしてくださった皆さんに頭を下げるのが精いっぱいでした。じいちゃんが大好きだった長男は、声を出して泣きました。検死の結果は溺死だそうです。あの日から20日目のことでした。

使えないと思っていた体育館は、多くのボランティアの方々のおかげで復旧し、4月20日始業式、22日入学式を終えました。まだまだ、先が見えないことばかりで

すが、一步一步進んでいきたいと思っています。

5月4日、気仙地区のバレー仲間が50人ほど集まり、世田米小学校で汗を流しました。仲間といっしょに都留でバレーができたこと、バレーができることに誇りをもって、がんばっていききたいと思います。

明日、学校に行ったら、校長さんに三木さんの話をさせていただきます。これからいろいろとお世話になることがあると思います。よろしくお願いします。 千田

【さよ】

やっとメール・固定電話が昨日の28日に復旧しました。今まで携帯しかつながりませんでした。震災の日は、1年生の帰りの会の最中で、「さようなら」のあいさつをする寸前でした。全校児童と職員は高台に避難して無事でしたが、学校は3階まですべて水をかぶり、全壊しました。残っているものは校舎のわくと黒板だけでした。職員の車も、子どもたちの荷物も学校のデータもすべて流されてしまいました。

家は津波の到達地域より、1kmくらい奥で無事でしたが、大船渡町で自営していた義理の父の工場が全壊して義父がなくなりました。でも、工場のがれきの下から見つけていただき、(重機6台でがれきをどかせたそうです)火葬も近くでき、葬儀もすることができました。見つからない方もたくさんおり、また、自宅がなく葬儀もできない方がいる中、我が家はまだまだ幸せな方だと思います。

そんな中、4月20日より新学期が始まりました。私は学校がないので、隣の小さな学校に3校が集まって、(集まっても、全校115人くらいなんですけど)スタートしました。テレビ局や新聞社がたくさん出入りしていてなんだか落ち着かないです。

校長はじめ職員も3校分いて、文書も、物資も3校別に送られてくるのに、児童は同じ教室にいるという変形なので、窓口がいっぱい煩雑です。なれない校舎に、急ごしらえの職員室で、あわただしく毎日を過ごしています。

でも、子どもたちは、友達が増え笑顔で生活しています。避難所暮らしの子もいますが、学校でみんなといることで笑顔が戻ってきているようです。

いろいろありましたが、元気でがんばっています。

全国からたくさんの支援もいただき、感謝でいっぱいです。

ありがとうございました。 サヨ

写真おくります。

1枚目は、3月12日、被災翌日の高田小の2階職員室から撮影した校庭。津波は左手からきました。中央の建物が体育館。右の茶色い部分が職員玄関です。

2枚目は、越喜来小。3階まで波がきました。右が体育館。

3枚目は7万本あった松のうち、高田松原に唯一残った「一本松」の写真です。





